

## 岐阜県立斐太高等学校

学 校 長 滝村 昌也  
学 校 住 所 高山市三福寺町736番地 電話 0577-32-0075

1 会議の名称 岐阜県立斐太高等学校 学校評議員会（第1回）

### 2 会議の構成

委 員	熊崎 元康	飛洲林業株式会社代表取締役社長
	小鷹利英子	有斐会副会長／高山デンバー友好協会理事
	野添 雅義	高山自動車短期大学学長相談役・教授
	藤江 久子	株式会社ケア高山代表取締役
	溝際清太郎	株式会社駿河屋魚一代表取締役社長

（委員名は五十音順、敬称略）

学 校 側	滝村 昌也	校長
	北原 和弘	事務部長
	村田 和宏	教頭（司会）
	野中 明子	教務部長
	足立 宏	進路指導部長 欠席 （代理）滝村 一代
	中田 広孝	生徒指導部長（記録）
	清水 潤	特別活動部長

3 会議の目的 学校運営について、学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。そのため岐阜県立斐太高等学校に学校評議員会を置く。

4 会議の開催 令和元年7月5日（金） 13:45～15:45 斐太高等学校 校長室  
委員5人と学校側7人が出席

5 会議の概要

- 授業参観（13:30～14:15）
- 開 式（14:25～14:30）
  - ・学校長挨拶
  - ・自己紹介
- 協 議（14:30～15:45）
  - ・授業参観・学習環境に関する感想・意見
  - ・令和元年度の重点的な取組（教頭より）
  - ・各分掌における具体的な取組
    - ①教務部 ②進路指導部 ③生徒指導部 ④特別活動部
  - ・意見交換「本校教育に対する提言」

#### （1）授業参観・校内の学習環境に関する感想・意見

協議に入る前の各委員による自己紹介の際、野添雅義氏より次の発言があった。

現在、「高山市地方創生に関する有識者会議」の委員を務めているが、地域創生が語られる時、「地元には大学がない」等の意見がある。しかしながら、文科省の定める大学＝高等教育機関とは、四年制大学、二年制大学のことであり、以前から地元には高山短期大学（現 高山自動車短期大学）が存在している。地元で文科省の認可する大学が存在するということは、今後「様々な展開の可能性を有する」ということでもあり、この点を御理解いただき、是非、再認識していただきたい。

- 意見 1 英語のディベートの授業を参観した。中心になる生徒のいるグループとそうではないグループの活動の違いが見られた。前者は活発で、後者は静かな様子だった。グループの作り方はどのようになっているのか。
- 学校より 参観された英語の授業は、応用と標準に分かれた授業展開をしており、ディベートの授業をスタートしたばかりのクラスであった。SGHの一環でもあり、グループは固定ではなく、試行錯誤しながら取り組んでいる。
- 意見 2 ディベートの授業を斐太高校でもぜひ頑張ってもらいたい。役割の理解とその徹底に工夫準備が必要である。数学では隣同士で解き方を確認しあっている様子がよかった。
- 意見 3 ディベートに注目している。オールイングリッシュでうまくプリントを使っていた。数学では「エアグラフ」が面白かった。全員が参加できる良さがあった。先生自身が授業を楽しみ、生徒も楽しみながら受けている様子がよかった。国語では生徒から「有史以来」の「有史」とはと質問され、先生が意味や用法について、一緒に考えるという対応が素晴らしかった。
- 意見 4 発達障がいやアスペルガーといわれるような生徒に対して合理的配慮は行われているのか。学習についていけないことに関して特別な配慮はあるのか。
- 学校より 定期的な情報交換によって、課題提出や授業内での具体的な教師の指導について配慮している。さらに充実できるようにしたい。
- 意見 5 母校を卒業して十数年になる。授業を見ていて雰囲気は変わっていないと思った。ディベートでは事前の役割分担が重要だと思う。授業も従来通りの受け身の授業から、教師との双方向の授業も見られた。今後も期待したい。
- 学校より この夏休みには、教室の黒板がなくなりホワイトボード化する工事が始まり、さらにプロジェクターやタブレット端末が整備され、徐々にICT教育の環境が整いつつある。また、デジタル教材にも予算が付き、順次購入の予定である。
- 意見 6 電子黒板の活用には難しさがあるが、生徒には動画による説明が有効である。是非活用してほしい。これから板書をしない授業、ノートを取らない授業の時代になるかもしれない。

## (2) 本年度の各教育活動の説明とそれに対する質問

- 説明事項 ①令和元年度学校経営計画（Future Planning・高等学校マニフェスト）、SGH事業の説明  
 ②各分掌の具体的取組（教務部・進路指導部・生徒指導部・特別活動部）の説明  
 ③本年度の本校環境整備予定（普通教室以外のエアコン整備・本校裏山急傾斜地等の整備・正面玄関前の庭の樹木の剪定調査など）の説明
- 意見 1 女子生徒の制服で黒タイツを認めていないことについて、学校の対応を伺いたい。
- 学校より 生徒会によるアンケート（生徒・保護者）を実施し、その結果をもとに生徒による意見集約と、改定案の取りまとめをするため生徒議会での話し合いが進行中である。
- 意見 2 制服の在り方に絶対的なものはない。生徒自身が自分たちで考えていく過程を大切にしてほしい。
- 意見 3 有斐会としても生徒の動向を聞いている。基本的には生徒の出した結論や方向性を大事にしたいと考えている。

### (3) 本校教育に対する提言

- 意見 1 学校には悩んだり苦しんだりしている生徒がいると思う。同じように先生方のご苦労も察するに余りある。どうか心療内科を受診するなど専門家を利用してほしい。
- 意見 2 退学等進路変更の生徒はどれくらいいるか？
- 学校より 転学する生徒を含めて数名いる。  
職員の長時間の時間外労働時間への対応については、勤務管理や報告を整理し、確認している。1か月あたり80時間を超える時間外、休日出勤の教員に対しては、管理職による面談と必要に応じて産業医の面談を行っている。
- 意見 3 前述したI T C教育環境の整備と普及（教育ツールの変革）は教員への負担は大きいと思う。是非、配慮してほしい。
- 学校より 本校の現在7クラス定員（280名）についてのご意見を伺いたい。
- 意見 4 生徒の学力差が大きくなっているのではないか。少子化、他校の定員割れという現状では適正とは言えないのではないか。
- 意見 5 伝統校である斐太高校に入学したいというニーズからは入学生は確保できるかもしれないが、学力面での二極化は避けられないのではないか。ある一定のレベルを保つ必要があり、定員は見直す時期にある。
- 意見 6 生徒の立場から考えると規模の大きい学校で多くの仲間と知り合うことができる。また、行事や部活動などの活気も確保できるのではないか。
- 意見 7 現状で学力差等の問題は客観的にあるのか。あるのであれば見直しも必要である。

## 6 会議のまとめ

今回の会議では授業参観の後、本校の本年度教育活動の概要説明を行い、感想及び提言をいただいた。

生徒の授業に取り組む姿勢については、昨年度と同様に高い評価をいただいた。また、各委員からはI C T教育導入に向けた環境の整備やディベートの授業など、授業改善に向けた取組と今後の方向性、さらに本校の伝統でもある自主、自律の精神に基づく生徒会活動についても理解と評価をいただいた。最後に、今後の飛騨地域の少子化の進行と本校の在り方について具体的な意見をいただいた。